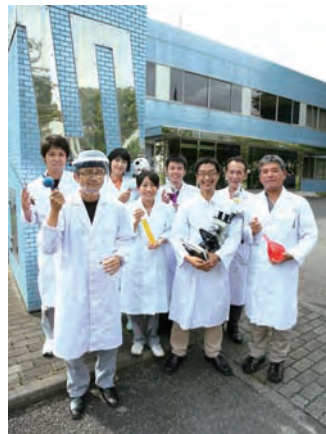


かいほ ジャーナル



【特集】科学捜査 海上保安試験研究センター

現場を支え、日々進化する 科学捜査の現場に迫る



表紙 科学捜査で現場を支える海上保安官

Japan Coast Guard Journal Vol.48 CONTENTS

グラビア

- 東日本大震災への対応..... 1
- 被災地へ届け～復興の願い～ 1
- 118番が助けた命 2
- 海難ゼロへの願い 2
- 音楽隊サマーコンサート 3
- 中国漁業監視船が領海内に侵入..... 3

【特集】

- 科学捜査** 4

- NEWS FLASH** 10

- 海上保安庁音楽隊
第18回定期演奏会のお知らせ** 12

- INFORMATION** 裏表紙

大切な命!自分で守る～海上保安庁からのお願い～
海上保安大学校・海上保安学校採用試験

東日本大震災への対応



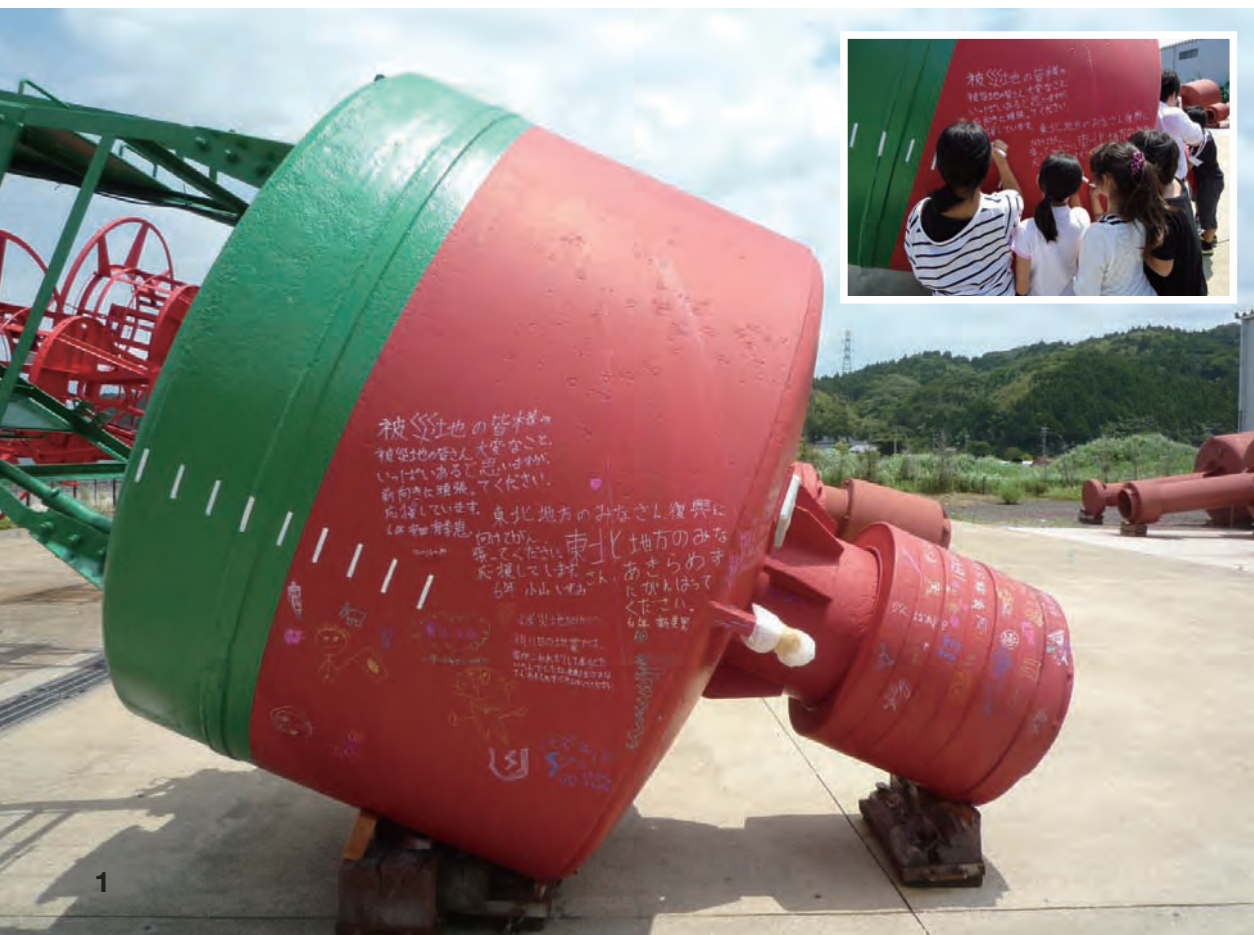
海上保安庁では、5月3日から7月14日までの間、クレーン付き作業船を所有している民間業者に業務委託して船舶交通の障害となっている漂流物の回収作業を行いました。

この作業は、海上保安庁の巡視船艇・航空機が行った調査をもとに漂流物の多い海域から実施し、総回収量12,372.9㎡の漂流物を回収しました。

東日本大震災において甚大な被害を受けた航路標識の機能を維持するため、七尾海上保安部に保管していた予備の灯浮標が被災地へ輸送されました。

被災地へ輸送される灯浮標には石川県七尾市の小学生がメッセージを書き込み、7月7日から被災した港で復興へのシンボルとして活躍しています。

被災地へ届け〜復興の願い〜



118番が助けた命



「フェリーから転落しました。泳げないのですぐに助けてください。」

6月18日、第六管区海上保安本部に海中転落者本人から「118番」通報が入り、巡視艇が現場に急行しました。また、第六管区海上保安本部から連絡を受けたフェリーも直ちにUターンして捜索した結果、海中転落者を発見し救命浮環を投下、その後現場に到着した巡視艇に無事救助されました。



海上保安庁では、7月16日から31日までの間、「海難ゼロへの願い」をスローガンに、海事・漁業関係者のみならず広く国民の皆様を対象とした全国海難防止強調運動を実施しました。

期間中は、「見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進」と「小型船の安全対策の徹底」を重点事項とし、海難防止講習会、海の安全教室及び訪船指導等を通して、海難防止を広く呼びかけました。

海難ゼロへの願い

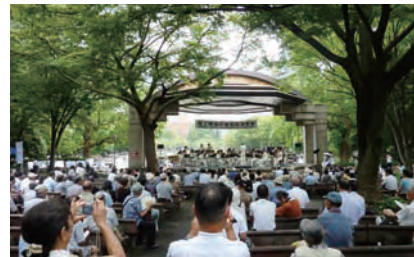




音楽隊サマーコンサート



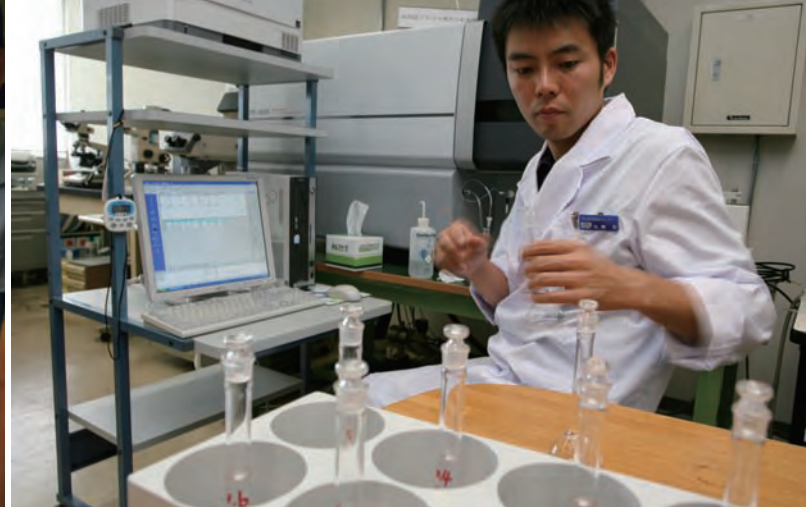
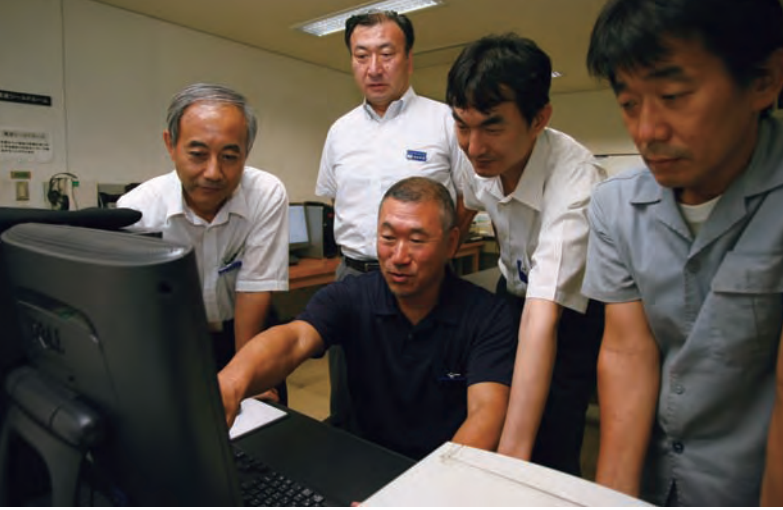
7月27日、東京都千代田区日比谷公園の小音楽堂において海上保安庁音楽隊のサマーコンサートが行われ、「キャンディーズ・メドレー」や「パイレーツ・オブ・カリビアン」など計7曲を演奏しました。海上保安庁のイメージキャラクター「うみまる」「うーみん」も登場して学生募集や海難防止の呼びかけを行い、多くのお客様に楽しんでいただける演奏会となりました。



中国漁業監視船が領海内に侵入



8月24日、尖閣諸島久場島北北東のわが国領海内に中国漁業監視船2隻が一時侵入しました。2隻は、領海出域後も接続水域内の航行を続けたことから巡視船、航空機が、わが国領海に入らないよう無線等で警告しながら警戒をしていたところ、同島周辺を時計回りに一周した後、西へ向け離れました。なお、中国漁業監視船が領海内に侵入するのは今回が初めての事です。



[科学捜査]

海上保安試験研究センター

現場を支え、 日々進化する 科学捜査の 現場に迫る

海に関わる様々な事件や事故において、
科学捜査の鑑定機関として現場を支えているのが
海上保安試験研究センターだ。
物理や化学、薬学、生物学などの
専門知識と機器を駆使して、証拠となる物や
データの分析・解析を行っている。

撮影／桜井健雄、取材／中島 敦(オンサイト)



事件や事故の捜査には科学的知見にもとづく鑑識・鑑定が必要不可欠だ。海を守る海上保安庁は、海に関わる多様な事件や事故を取り扱っているが、これらに関わる科学捜査は現場だけでなく専門機関でも行われている。東京・立川にある海上保安試験研究センターは、海上保安庁の現場が行う科学捜査を支えている鑑定機関だ。

試験研究センターは管理課、航行援助技術課、装備機材課、化学分析課、科学捜査研究課、そして電子情報分析課の6課から成る。職員数35名。それぞれ海上保安官としての現場経験を積みながら専門知識を身につけたエキスパートが揃っている。

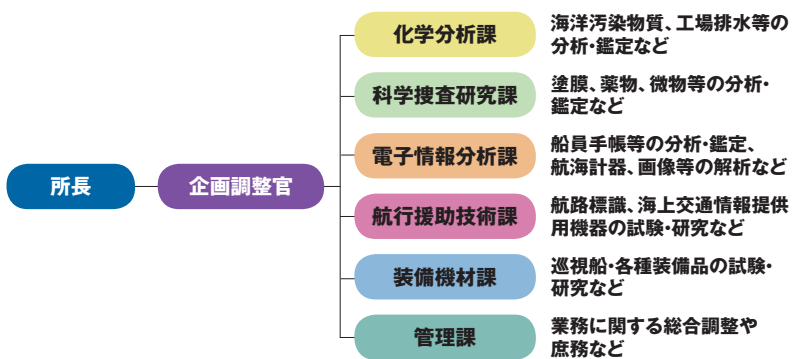
6つの課の中で、科学捜査を行っているのが化学分析課、科学捜査研究課、そして電子情報分析課の3課だ。

試験研究センターでの鑑定が必要な場合、捜査にあたる第二線の各部署から現場で採取した証拠物が送られてくる。これらを分析して考察し、鑑定書で依頼部署に回答するのが各3課の仕事だ。

化学分析課の主たる業務は不法に排出された油や工場排水を分析、鑑定する。また事故等で海上に油が流れ出た場合に使用する油処理剤や吸着材等の認定のための検査も請け負っている。

科学捜査研究課は、船舶同士の衝突といった事故の際に塗膜片やFRP片を採取して照合を行う。採取された塗膜片を科学的に分析比較する作業だが、非常に細かい塗膜片を扱うだけに神経を使う作業でもある。また違法薬物の鑑定も科学捜査研究課が行っている。

海上保安試験研究センター組織図



9月6日、海上保安試験研究センターにおいて、韓国海洋警察研究所と日韓試験研究機関技術交流セミナーが開催された。チェ・ホンギ韓国海洋警察研究所長ほか研究スタッフ3名と韓国大使館領事も来所、それぞれの研究成果を発表し、相互の技術レベルや得意とする分野についての理解を深めた。

沿革

明治元年7月	灯台用の機器を製造する灯台台掛(とうみょうだいいかかり)として横浜に設置される。
昭和23年5月	海上保安庁創設とともに灯台局工務課工場となる。
昭和32年8月	船艇に使用する物品の製作、修理および試験研究を加え経理補給部工場となる。
昭和47年5月	総務部海上保安試験研究センター発足。化学分析課を設置。
平成2年4月	立川市へ移転。
平成10年4月	科学捜査研究課を設置。
平成18年4月	技術第一課、技術第二課、技術第三課に代わり、航行援助技術課、装備機材課、電子情報分析課を設置。



災害応急対策活動の拠点として機能



試験研究センターは立川広域防災基地の一角にある。大規模災害が発生して政府の災害対策本部が移転された場合には海上保安庁の災害応急対策活動の拠点として機能するため、非常時のオペレーション室とヘリポート、格納庫が備えられている。



これら2課が「目に見える証拠」の鑑識・鑑定を行っているのとは対照的に、電子情報分析課は電子機器から取り出したデータという「目に見えない証拠」を取り扱っている。船舶が自分の位置を計測するためのGPSや、フライトレコーダーやボイスレコーダーのように航海データを記録するVDRなど、多種多様な電子機器のデータを取り出し、解析して証拠化するのが彼らの仕事。衝突事件ならば双方の船の航跡や操船記録を調べたり、あるいは領海付近の船が領海内に入っているか、いないか確認する、といったケースがこれらにあたる。その他、パスポートや船員手帳の偽変造の鑑定、ビデオ映像や音声の解析、また最近ではパソコンはもちろんのこと、携帯電話など扱う機器の種類が増えてきており、今後ますますニーズは高まっていくだろう。

海上保安庁が扱う海での事件や事故は多種多様であり、常により幅広い情報を入力し、新しい鑑定手法を身につけていく必要がある。そのために他の機関との交流も実践されており、環境省などの研修に派遣され、交流と情報交換に努めている。また韓国の海洋警察研究所とも毎年技術交流を行うなど関係機関との連携が取られている。その他、大学、学会などへの参加も多い。

科学的手法による分析や鑑定によって、試験研究センターは海上犯罪の解明を日々支えている。



電子情報分析課

多様化するデジタルデータを分析して事件解決

電子情報分析課
岡田 衆象課長



電子情報分析課の発足は平成18年4月。IT部門を専門に独立させて6年目という若い組織だ。前身は科学捜査研究所および技術第三課であり、今後ITに関連した解析や鑑定が増えていくことを踏まえて独立、スタートした。この課で行う業務は、

- ・海上における犯罪の捜査に関連する電子情報の解析に関する試験研究
- ・海上保安業務に使用する機器への電子情報の応用に関する試験研究

これらに応用する鑑定および検査となる。

解析対象として最も多いのは航海計器のデータだ。船舶の位置情報を示すGPS、航海情報記録装置であるVDR、AISと呼ばれる自動船舶識別装置などが主な対象となる。事件や事故が発生した際には、これら航海計器のデータを解析して海図に落とすまでを受け持つことになる。通常これらのデータは各管区の情報通信管理センターが取り扱うのだが、機器そのものが海没した場合などは電子情報分析課の出番となる。ほとんどの場合は機器を分解・洗浄して再度組み立て、正常に動作するようにしてから取り出す必要があるという。

これらのデータは、例えば衝突事故であれば双方の船舶の航跡から、どのように操船したかの重要な証拠となるし、あるいは領海付近を航行した船舶について、領海内に入ったか否かの証拠となる。

パスポートや船員手帳の偽変造の鑑定は、偽造変造文書鑑定システムを使って行

う。スキャナー、パソコン、ディスプレイまでが一式となっており、対象物をスキャニングすると可視光線、透過光、紫外線、赤外線3種類でのスキャニング画像が同時に表示されるシステムだ。各国のパスポートや船員手帳はそれぞれ所定の箇所を透かしや紫外線に反応するインク、赤外線を吸収するインクなどを使い分けて偽変造を防いでいるが、このシステムを使うことで、それぞれのスキャニング結果をひと目で確認することができる。

画像や音声の処理で事件の解決に至った具体例としては、事件現場のビデオ映像解析や証拠物件の画像処理が挙げられる。前者は港に設置したビデオカメラで不法投棄を行った車両を録画し、そのままでは識別できない車両ナンバーを読み取って証拠としたものだ。後者は船体の名前を意図的に消した上で廃棄された船舶の所有者を割り出すために、やはり画像処理によって消されていた文字を浮かび上がらせ、船名を判明させたケースである。

電子情報といっても、データそのものを取り出すことに困難を伴うもの、データを加工して事件解決に繋げるものなど事例は様々だ。さらに今後はパソコンや携帯電話のデータの扱いが増えるのも容易に予想されることで、より一層扱う機器やデータの種類は増えていくだろう。

装備機材課

巡視船に使う機器を研究開発 開発した装備が特許を取得した例も



破断した金属材料やワイヤーロープの鑑定など、海上保安庁が日々の業務で使用する機材の研究開発や、巡視船艇や航空機が故障した際の原因追究を行っているのが装備機材課だ。例えば船艇のプロペラが破損した場合、その原因が腐食によるものなのか、あるいは海底の岩などに接触したことによるものなのかを調べ、依頼元に報告する。今年多い例としては、エンジンのオイルフィルターに金属粉が溜まることの調査依頼が3件続いており、その分析を行っている。トラブルの原因追究を行うことで、事故の抑止はもちろんのこと、現場での効

率的な業務を支えているのだ。

装備機材課は実際に海上を航行する船の試験などに使用する40mの回流水槽を管理し運用している。平成2年に建設されたこの水槽は国内トップレベルの規模を誇り、最大毎秒1.5メートルの水流を発生させることができる。水槽に浮かべられているのは350トン型の高速巡視船の模型で(スケールは約18分の1)、航行中の横揺れの速度影響を測定している。また航行援助技術課で進めているLEDによる可視光通信の研究開発では、この水槽に発光部を備えたブイを浮かべ、実際に揺れる状態での受信確率を測定するなど、実際の海上で行う前の事前試験を行っている。



海上保安庁が考案し特許を取得した降下器M2スライダー。スライドを使ってロープを迅速に外すことができ、不安定なヘリコプターからの懸垂降下に威力を発揮する。自衛隊や消防でも使われている。

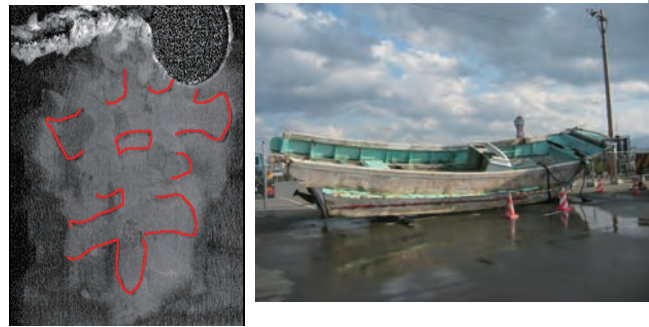
電子情報分析課

ビデオ映像を加工し車両ナンバーを判明 消された漁船名も見事に浮かび出させる

夜間港内にタイヤの不法投棄が行われていたためビデオを設置して監視撮影を行った。ただし4桁の数字は読めるものの、運輸支局等を示す文字と分類番号を読み取ることはできなかった。そこで動画データからナンバー部分を切り出し、大きさと角度を揃えて重ねることで運輸支局等を示す文字と分類番号を浮かび上がらせる処理を行い、容疑車両を特定した。



違法に廃棄された船舶では、FRPの船体に記載されていた船名部分を削ったり塗りつぶしたりして所有者が分からないようにするケースがある。この場合は紫外線で撮影し、さらに白黒に変換することで、船体の文字を浮かび上がらせた例。船名が判明したため検挙に繋がった。



航行援助技術課

大型灯台を除き進むLED化 より安全な海上交通のため可視光通信の研究も

消費電力が極めて低く、寿命の長いLEDは、航路標識に最適な光源だ。灯台やブイといった、安全な海上交通に欠かせない航路標識用機器や資材を管理してきた航行援助技術課では、現在、航路標識のLED化に伴う研究や実験が進められている。現在のLEDでは対応できない大型の灯台を除けば、来年には90%がLED化される予定だ。また同時に航路標識の電源も、太陽電池と蓄電池の組み合わせへの置き換えが進んでいる。これまで航路標識の電源として風力発電や波力発電を開発し実用化してきたが、メンテナンス性の良さから今はこの太陽電池と蓄電池の組み合わせが主流になっている。

航路標識のLED化に伴い、新たな取り組みも進んでいる。その一例が可視光通信だ。LEDの光に信号を乗せることで、船舶等に情報を伝える仕組みである。例えば灯台の光にその灯台の名称や位置情報を乗せて伝えることができ、GPSなどを搭載していない小型船舶やプレジャーボートにとっては非常に有効な情報となる。さらに積極的に気象情報や警報を送ることも可能だ。信号の受光部となるフォトダイオードを組み込んだ双眼鏡に情報を表示することができ、さらに今後は携帯電話やスマートフォンのカメラ(CCD)で信号を受け、画面に情報を表示すれば、誰もが便利に活用できるシステムになるだろう。



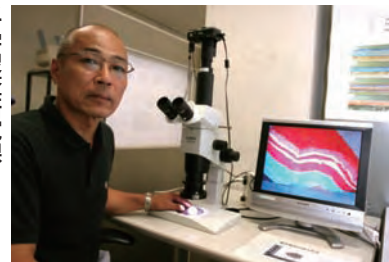
左の画面からLEDの光と一緒に信号を送って右の受光部で受信、接続されたPCモニター上に情報が表示される。海上での実用を目指し、1マイル程度の距離での通信を想定して研究が進められている。



科学捜査研究課

一片の塗膜から 1隻の船舶を特定

科学捜査研究課
奥野正彦課長



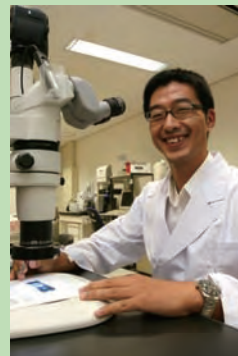
船舶が衝突した際の塗膜片やFRP片の鑑定や、薬物毒物等の分析鑑定、そしてこれらに関する試験研究を行っているのが科学捜査研究課だ。中でもいちばん多いのが塗膜の鑑定。粉末のように細かい塗膜片を相手に、年間200件以上の試料を鑑定している。

塗料は色の成分である顔料、塗布した際に膜を作る樹脂、塗膜の性能を付加するための補助材、そしてこれらを溶かして塗りやすくするための溶剤から構成される。実際に送られてくる塗膜片は既に溶剤が蒸発してしまっているため、分析対象となるのは顔料、樹脂、補助材といったものになる。

船舶に塗料を塗る際、塗料は何回も塗り重ねられ、また修繕等で再塗装が行われることもあるので、塗膜は層を成している。この塗膜片の鑑定は三段階に分かれており、第一段階は各層の構成の検査。第二段階は各層の成分比較、第三段階で塗膜の識別を行い、すべてが一致して初めて、同じ船からの

まずは塗膜の“いい断面”を探るところから始めます

「現場から送られて来る試料はプラスチックであったり、ゴムであったり、血液あるいは尿など様々ですから、その度に違う分析方法を見きわめなければなりません。塗膜にしても衝突している場合には層がつぶれてしまっていたりして、層を出すこと自体が難しい場合もあります」と語るのは科学捜査研究課の佐藤宏吉官だ。

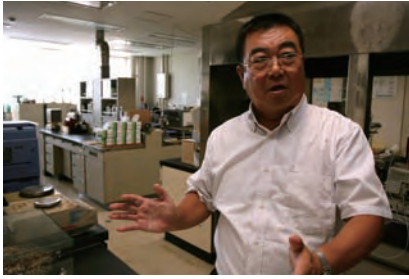


「塗膜の厚さはせいぜい2~3mm。しかも実際の船は白を塗り重ねたりするので、その2~3mmの中に同じ白が10層以上、時には20層も重なっている場合すらあります。ですので試料については、まずは“いい断面”を探るところから始めます。塗膜を切ったり削ったりするには、医療用のメスを使っています。人によって刃先の形状に好みはありますが、1mmないような層を削るのでメスでも大きすぎたりすること。やはり目に負担の掛かる作業ですね。それに、自分の息で塗膜片を飛ばしてしまうこともあるので、集中を切らすことはできません」

塗膜であると鑑定されることになる。「工場では、車種や年式は特定できてもどの車の塗膜なのか1台を絞り込むことはできません。しかし船の場合には塗膜の厚みや塗り方が違ったり、何度も補修が行われ、船ごとに特徴が現れるので、小さな塗膜片から1隻の船が特定されるケースが多いのです」と科学捜査研究課の奥野正彦課長は説明する。

また塗膜片の鑑定以外では、薬物の鑑定や、不審死の原因究明の鑑定も行っていて、飲酒が原因での事故が疑わしい場合には血中アルコールを調べることも多い。

薬物に関しては、摘発数がそう多くないことや、新種の薬物が登場するケースも多いため、他の機関との情報交換が欠かせない。警察、財務省、そして厚生労働省の薬物担当官と共に、毎年定期的に情報交換会を設け、欠かさずに最新情報を入手している。



化学分析課
小泉 敏章 鑑定官

化学分析課

油や廃棄物の分析のエキスパート

科学捜査を行う試験研究センター3課の中でも、海を専門とする海上保安庁が得意とする分野が油の分析だ。美しい青い海も、ときには事故による油の流出で汚染される。平成8年のナホトカ号沈没による重油流出事故では、6000キロリットルを超える大量の重油が福井県を中心に石川県から鳥根県という広い範囲に流出し海を汚染した。

このとき、被害が及んだ海域を特定したのが海上保安庁だ。各地から集められたサンプルを分析し、ナホトカ号から流れ出した重油の及んだ範囲を特定したのだ。原油は特定の成分が産出する油田によって異なる。世界中に3〜4万あると言われる油田について、化学分析課には日本が輸入している総量の6〜8割のデータやサンプルが集められている。

油の流出は事故だけではない。時には意図的に、油などを不法に廃棄する船もあるからだ。船舶が航行する際、燃料油と潤滑油、それに水が混じった油が船底に溜まる。ビルジと呼ばれるこの油水混合物は、船の中で処理をして油は陸上へ持ち帰り、分離した水については定の濃度以下にして排出することが定められている。ところが法律で定められた処理を怠って、こっそりとビルジを海に流してしまう船もある、ということだ。



女性も活躍できる職場なので躊躇しないで



栗栖官が抱えているのは通常2万5000件目の試料。昭和33年の業務開始から50年以上、燃料油や潤滑油の劣化状況を調べ、船艇の効率的な運用に貢献してきた。試料は8月末日現在で、2万6345件を数えており、これからもその数を伸ばしていくことになる。

化学分析課で主に巡視船艇が使用する燃料油や潤滑油の性状試験を行っている栗栖明日香官は、約1年半の産休・育休を経て今年4月に復職した。航海科出身、最初は釧路海上保安部の巡視船「りりり」に乗船していた。

「大学で海洋に関する勉強をしていたこと、同じ大学の先輩で海上保安庁に就職している方がいたのが入庁のきっかけです。入る前は男性が主体となるイメージが強かったですし、それだけに海上保安学校では必死に訓練しましたが、それでも実際に現場に出ると力では敵わない面は確かにあります。でも今やっている化学分析などは力の差に関係はありませんし、育児制度も整ってきて、非常に働きやすい現場になってきていると思います。昨年5月には上級鑑識研修に2ヶ月行かせていただき経験を積むこともできました。女性の方は、入る前から躊躇しないでもいいと思います」



平成23年度敦賀地区合同海難救助訓練での漂流者吊り上げ救助訓練

(9月7日・敦賀海上保安部)



カーフェリーの船舶火災を想定した訓練で

放水を行う巡視船「しらかみ」 (7月14日・稚内海上保安部)



海上保安学校の「五森祭」で練習船「みうら」

体験航海 (7月3日・海上保安学校)



沖縄県総合防災訓練での負傷者吊り上げ救助訓練

(9月2日・石垣海上保安部)

FLASH

消火技術慣熟訓練

(9月6日・境海上保安部 巡視船「おき」)



海上保安大学校学生が端艇で約65kmの距離を航海

(8月30日～9月1日・海上保安大学校)



巡視船「おき」による体験航海及び洋上訓練

(8月20日・境海上保安部)



釣掛埼灯台で夜間の一般公開(8月9日~10日・串木野海上保安部)

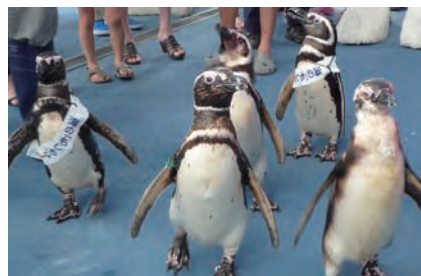
福井県の小学生が人文字で118番

(7月29日・敦賀海上保安部)



東日本大震災での活動状況をパネル展示

(7月30日・室蘭海上保安部)



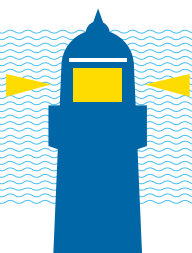
のとじま臨海公園水族館においてペンギンが118番普及活動実施

(7月18日・七尾海上保安部)



巡視船「みずき」の体験航海で操舵を体験

(7月2日・石垣海上保安部)



NEWS



保育園児が救命胴衣着用に初挑戦

(7月22日・留萌海上保安部)



中学校で安全講習を実施

(7月20日・水島海上保安部)

職場体験学習で女子中学生が放水訓練を体験(9月8日・尾道海上保安本部)



ご当地「うみまる」お披露目(7月18日・姫路海上保安部)

第18回定期演奏会のお知らせ

平成23年11月12日(土)午後2時から第18回定期演奏会を開催します。
郵便はがきまたはインターネットで応募出来ます。応募者多数の場合は抽選となります。
応募の締切は、平成23年10月21日(金)までとなっています。
皆様のご来場を心よりお待ちしております。



第18回定期演奏会

海上保安庁音楽隊

Japan Coast Guard Band

平成23年 **11月12日**(土)

午後1時開場 午後2時開演

ゆうぼうとホール (五反田)

東京都品川区西五反田8-4-13

- JR、都営地下鉄浅草線、東急池上線
「五反田」駅下車西口から徒歩約5分
- 東急池上線「大崎広小路」駅下車徒歩約1分

※ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい。

指揮：稲垣征夫 (海上保安庁音楽隊技術顧問)

演奏予定曲

行進曲「ゴールデン・ジュブリー」

「威風堂々」第4番

ハリウッド・マイルストーンズ ほか

■申し込み方法

- はがき応募 〆切：10月21日(金)(必着)

郵便はがき裏面に代表者の郵便番号、住所、氏名、年齢及び同伴者(1名のみ)の氏名、年齢を記入のうえ、右の要領でお申し込み下さい。

※往復はがきではありませんので、ご注意ください。

- インターネット応募 〆切：10月21日(金)午後6時

海上保安庁ホームページよりご応募ください。

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/info/teien/>

※個人情報の取扱いについて

応募の際にご記入いただいた個人情報は、本演奏会の公募事務および入場券の発送のみに使用いたします。

※未就学児童のご来場・着席は、他のお客様のご迷惑となる場合がありますので、お断りします。

応募はがき記入方法

郵便はがき
1008918
東京部十代田区霞が関2の1の3
海上保安庁
政策評価広報室
定期演奏会係
〇〇〇〇〇〇〇〇

※必ずご記入ください。

- ・郵便番号
- ・住所
- ・氏名(代表者)
- ・年齢
- ・応募のきっかけ
(例：チラシ、雑誌「〇〇」等)

※同伴者を希望する場合のみ
ご記入ください。

- ・氏名(同伴者・1名)
- ・年齢

(財)日本海事センター補助金事業

問い合わせ先：海上保安庁政策評価広報室 03-3591-9780 (平日午前9時から午後6時まで)

はがき応募は、往復はがきではありません。ご注意ください。

今後の演奏予定や演奏会での出来事、「音楽隊員になるにはどうするの?」など、多種多様な情報を、海上保安庁音楽隊ホームページに掲載しています。
また、米国コスタガード音楽隊との合同演奏の動画を海上保安庁ホームページで公開しています。

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/syukai/soshiki/soumu/band/index.html>



海上保安庁音楽隊



これまでの主な演奏実績

昭和63年	4月	海上保安庁創設40周年を機に発足
	5月	海上保安庁創設40周年記念祝賀会において初演奏
平成元年	1月	昭和天皇「大喪の礼」における奏楽
平成2年	11月	今上天皇「即位の礼祝賀御列の儀」における奏楽
平成5年	6月	皇太子殿下ご成婚パレードにおける奏楽
平成6年	11月	第1回定期演奏会
平成10年	11月	第5回定期演奏会(海上保安庁創設50周年記念)
平成12年	4月	香淳皇后「斂葬の儀」における奏楽
平成20年	5月	海上保安制度創設60周年記念式典における演奏
	11月	海上保安制度創設60周年記念演奏会
平成22年	8月	ミュージック高崎ジャパン
平成23年	1月	118番の日制定記念ランチタイムコンサート



発足当初から音楽監督を務める稲垣征夫氏

海上保安庁音楽隊は、国民の皆様へ海上保安庁をよりよく知っていただくことを目的に昭和63年に誕生し、今年で23年目を迎えました。発足以来吹奏楽の第一人者である稲垣征夫氏の技術指導・指揮のもと、各種の式典や海に関するイベントなどでの演奏活動を通じて海上保安庁のPR活動を行っています。これまでの演奏実績は550回、延べ約4100曲、集客数は約40万人に及びます。

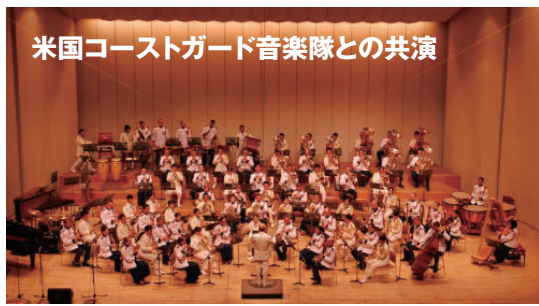
隊員は専属隊員ではなく、東京霞が関にある本庁等の各部署で業務を行いながら練習や演奏活動に励んでいます。平成23年3月に発生した東日本大震災では、震災発生の翌日から第二管区海上保安本部（塩釜）へ応援要員として派遣された

隊員もいます。

隊員は、音楽隊に所属する以前は荒れ狂う海でのレスキュー活動や密輸・密航事件の捜査など、現場第一線で活躍していた海上保安官であり、将来は再び現場業務につくことになります。

これまでの主な活動は、平成元年 昭和天皇「大喪の礼」、平成2年 今上天皇「即位の礼祝賀御列の儀」、平成5年 皇太子殿下ご成婚パレード及び平成12年7月の香淳皇后「斂葬の儀」における奏楽を行ったほか、平成20年には米国コーストガード音楽隊を招へいし、海上保安制度創設60周年記念演奏会を開催しました。

また平成6年から開催している定期演奏会も今年で18回目を迎えます。



米国コーストガード音楽隊との共演



平成6年11月 第1回定期演奏会
(東京都 虎ノ門ホール)



平成10年11月 第5回定期演奏会
海上保安庁創設50周年 音楽隊発足10周年
(東京都 日比谷公会堂)



平成20年11月 海上保安制度創設60周年記念演奏会
(海上保安庁音楽隊発足20周年)

海上保安庁音楽隊の演奏がCDで聞けます



The COAST GUARD Band

平成20年11月に初来日した米国コーストガード音楽隊と海上保安庁音楽隊との歴史的なコンサートを収録。

日米各音楽隊の単独演奏ではそれぞれの音楽隊の魅力が十分に詰まっており、さらに合同ステージではより一層熱い演奏を披露。吹奏楽ファンはもちろん、すべての音楽ファンに贈る珠玉の一枚です。

録音：2008.11.28～29

The COAST GUARD Bandは、全国のCDショップで購入出来ます。

価格2,800円（税込）

Wish For Peaceful Sea vol.3

海上保安庁音楽隊のアルバム第3弾となる「Wish For Peaceful Sea vol.3」です。今回のアルバムは、定期演奏会と同様に二部構成としており、収録した曲は、平成12年度から平成15年度にコンサートホールで演奏した曲の中から選りすぐりの曲ばかりを集めた、真に集大成とも言えるものになっています。

このCDが、皆様と海上保安庁を結ぶ架け橋として、その一翼を担うことができれば幸いです。

購入方法（財）海上保安協会にて販売 価格1,800円（税込）☎03-3297-7580



INFORMATION

大切な命！自分で守る

～海上保安庁からのお願い～

マリレジャーを安全に楽しむために、事前に海の気象情報・安全情報を収集し、
もしもに備えて、自己救命策3つの基本を守りましょう！

自己救命策 **3** つの基本

1



海に落ちても沈まない
ライフジャケットの着用

2



水中でも大丈夫(防水パックの使用)
携帯電話の携行

3



海のもしもは……
118番の活用

海上保安大学校・海上保安学校採用試験

海上保安庁では、当庁の職員の養成機関である海上保安大学校及び海上保安学校の学生を募集しています。試験は、高等学校等卒業者を対象に行われます。試験の日程については、下記のとおりです。受付期間はインターネット受験申込み受付の日程です。詳しくは、最寄りの海上保安本部または海上保安庁総務部教育訓練管理官(☎03-3580-0936)までお気軽にお問い合わせください。



平成24年度採用試験日程



海上保安大学校

海上保安大学校 学生採用試験

【受付期間】8月30日～9月6日
【第一次試験】11月3日、4日
【海上保安大学校HP】<http://www.jcga.ac.jp/>



海上保安学校

海上保安学校 学生採用試験

海上保安学校学生採用試験
【受付期間】7月24日～8月2日 【第一次試験】9月30日
海上保安学校学生採用試験(特別)
【受付期間】4月2日～4月9日 【第一次試験】5月20日
【海上保安学校HP】<http://www.kaiho.mlit.go.jp/school/>

学生採用試験HP <http://www.kaiho.mlit.go.jp/saiyou/bosyu/index.html>



かいほジャーナル48号

平成23年10月14日発行

編集・発行：海上保安庁 政策評価広報室

本誌掲載の写真、イラスト及び記事の無断転載を禁じます。

海上保安庁
JAPAN COAST GUARD

海のもしもは**118番**